放射線科卒後臨床研修カリキュラム

1. 放射線科における卒後研修の意義

　放射線科は各科との連帯を大切にし、病院全体の患者の画像診断、画像下手術(IVR)、放射線治療を担当する。前者では解剖学、病理学の知識を必要とし、正確で役に立つ診断レポート作成を行う。後者では患者と直接接し、最先端の画像下外科治療の手技を主にカテーテルを用いて行い、侵襲を出来るだけ少なく病巣の治療を行う。放射線治療も三次元照射と IMRT の手法を用いて腫瘍を選択的に照射する工夫を行っている。いずれの分野でも種々の疾患と多数の症例を経験することが可能で来院患者に対する視野を広めることにつながる。
当科での臨床研修は単なる知識や経験の習得ではなく、正確な診断、治療に到達するためのプロセスを学んでほしいと考えており、医療チームの一員としての研修医個人の自主性を重んじている。

2. 研修到達目標

① 頭部、胸部、腹部、骨盤部領域の救急、良悪病変の診断が行いうる。
② 救急時と含むカテーテルを用いた画像下手術の手技の習得と適応、禁忌を明確にしうる。
③ 三次元照射と IMRT を用いた悪性腫瘍に対する根治的治療理論と治療計画を行いうる。
④ 悪性腫瘍に対する放射線化学療法の効果と副作用、合併症を理解し個々の患者に対する化学療法のプロトコールを立案しうること。
⑤ 終末緩和医療の対象患者との人間関係の確立と不安を緩和する医療を提供できること。

3. 研修内容

① 単純 X 線撮影、断層撮影、造影検査、CT、MRI、超音波検査の実際と読影。
② 造影剤の種類、適応、使用法を理解し、副作用への対処と、カテーテル手技の習得。
③ 人体の解剖とその各種画像診断上の正常解剖、主要疾患の病理の理解と画像所見。読影と画像診断報告書の作成。
④ 消化管造影検査、尿路、胆道造影検査、超音波検査の手技ができ、主要疾患の病理と画像所見との関連、読影と画像診断報告書の作成。
⑤ CT 検査、MRI 検査、核医学検査における、主要疾患の病理と画像所見の対比、

読影と画像診断報告書の作成。
⑥ 血管造影検査の適応、方法、合併症の理解。
⑦ 動脈塞栓術、静脈効果術、ステント留置、バルーン拡張術、線溶療法、超音波下穿刺術、ラジオ波焼灼術等のカテーテル手技の習得。
⑧ コンピューターを駆使した三次元的放射線治療計画の作成。

4. 週間スケジュール

通常勤務以外に下記のカンファレンスを行っている(参加は本人の自由)。
① 放射線治療勉強会 (毎週火 8:15〜9:00)
② 血管造影症例検討会 (毎週金 8:00〜9:00)
③ MRI、CT 症例検討会 (毎週月 8:00〜9:00)
④ 第2外科との症例検討会 (毎週金 18:00〜19:00)
⑤ 第 2 内科、第 2 外科との三科合同カンファレンス (月一回火 18:00〜19:00)
⑥ 第3内科、第1外科との肺癌カンファレンス (月一回金 17:00〜18:00)
⑦ 歯科口腔外科とのカンファレンス (月一回月 18:00〜19:00)
⑧ 耳鼻咽喉科とのカンファレンス (月一回火 18:00〜19:00)
⑨ 産婦人科とのカンファレンス (月一回水 18:00〜19:00)
⑩ 総合画像検討会 (毎週水 18:30〜19:00)
⑪ 研修医講習会 (毎週水 19:00〜19:30)
⑫ 早朝回診 (毎週水 7:30〜9:00)